



改正  
繪入

# 南都名所記

各家段名所舊四跡古可集

春日社 惣社 尊海

東大寺 寺 社 奉子 海

二月堂 觀世音 圓緣 海

大佛殿 建 立 緣 死 海

興福寺 伽藍 遠 立 海

千厓文庫  
文庫24  
A 948



# 奈良八景

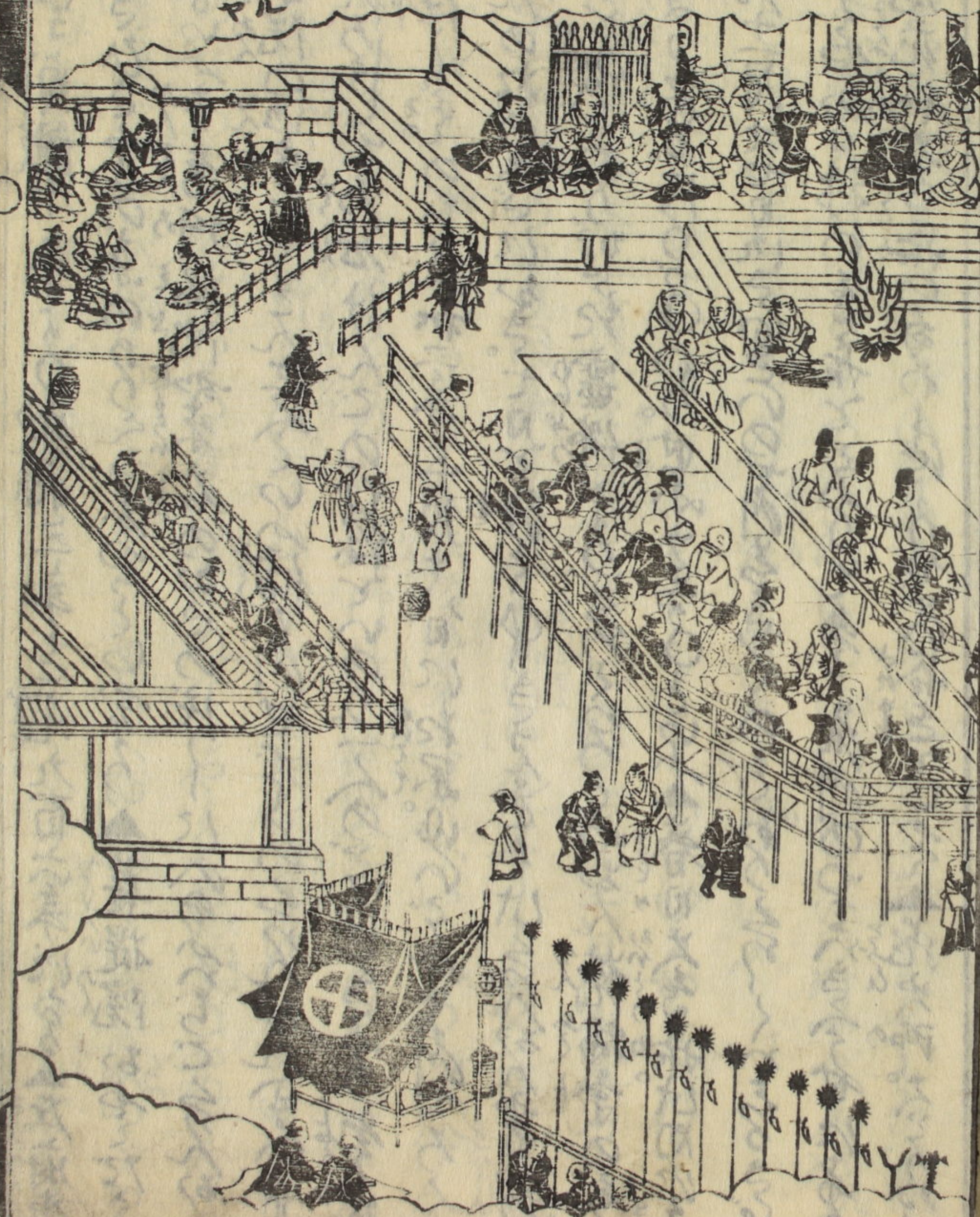


▲南都猿沢の池へ春日明神のわかみの池なり。天の帝よ  
 ぼくまらうら孫めといふまらうら君とらうまのうせい池うら  
 ひまうくなる。天皇よとわれぬあぢりめいけらうに神幸うらて  
 へて前御せあまらう池の池もつははらもこがむとがぶあぞひま  
 ▲奈良女宮。いけの西のこにあり ▲夜掛柙。ふりめあとおげい時  
 夜とふけし柙なり。池の東にあり。いけの池の柙やまもこが  
 孫がれぬそのわかみまらうら ▲後秀山。池より東成身院の  
 うら松のせらふとふいあさうあうげさるるあまの山の方の  
 あさうけ人をあまの山の方の ▲揚美地橋。こんがんといけへ奥後  
 寺に奈良といふ橋のうらあひいあまらうらうらあうけうら  
 ▲南大門。二王ありひ前とて毎年二月七日より十日と新統五  
 日迄の役者おぼしむ。天下泰平国土安全の因縁。清和天皇の

文庫山

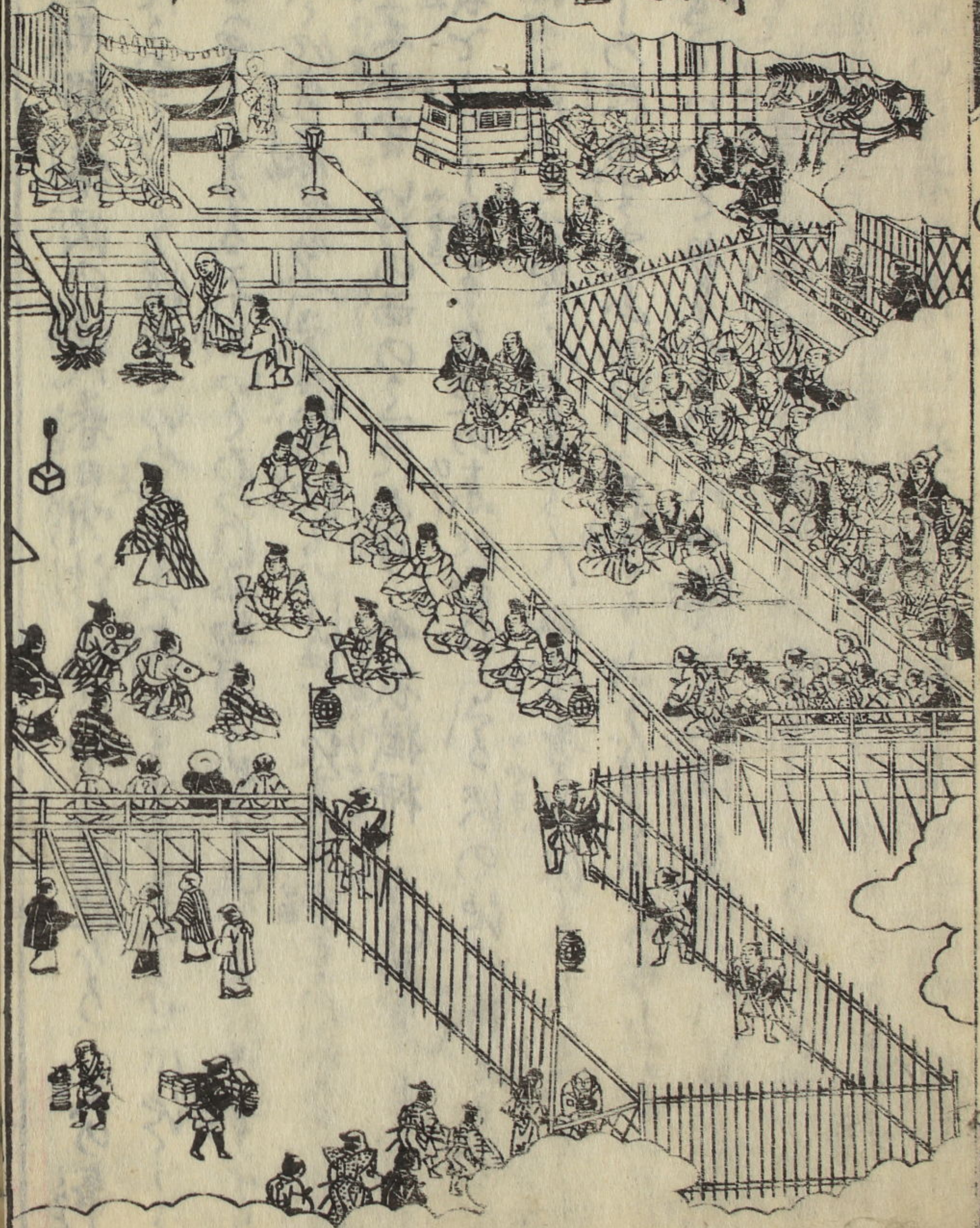
コンハル  
ガケマ

福寺南大門



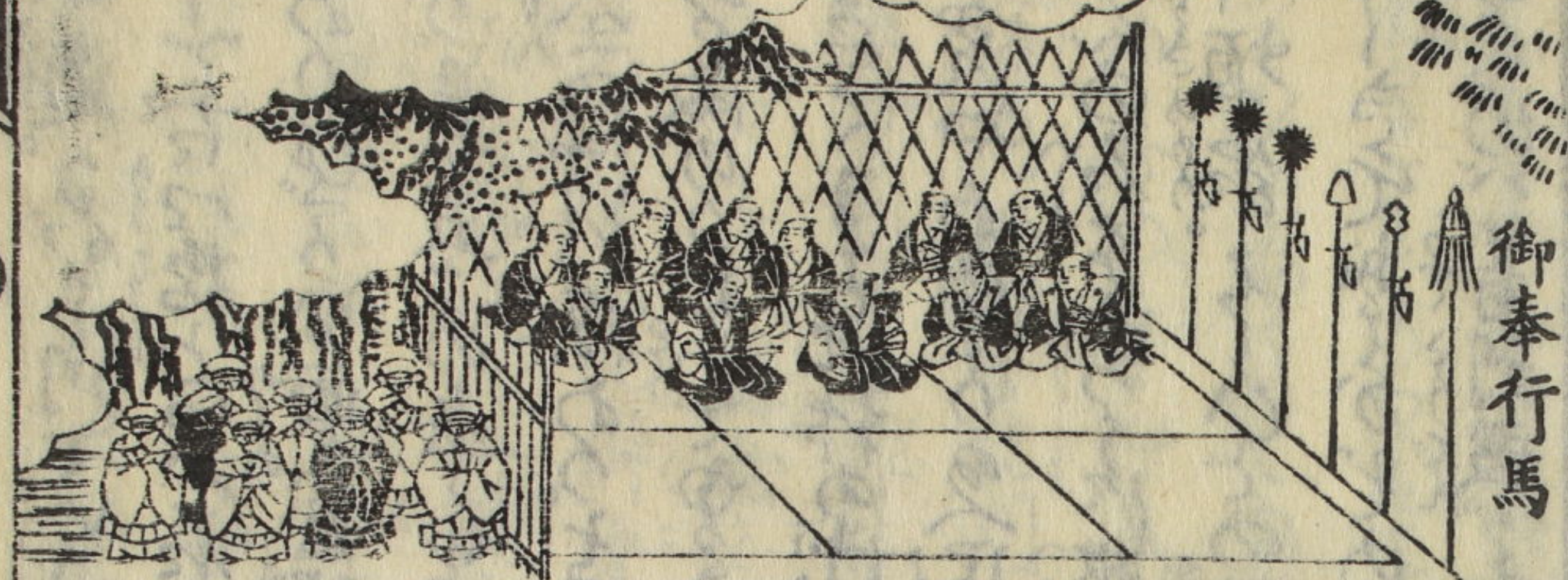
南都興

新能圖





御奉行



御奉行馬



仕丁赤衣敷人



戸上公人

春日 若宮 御祭禮



橋手公人

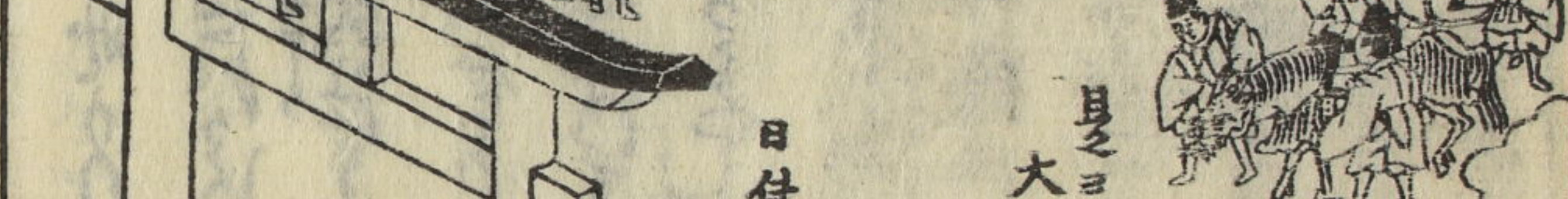


小泉家中  
高取家中  
伊賀家中  
郡山家中



目三ヨリ西  
大名馬

日仗

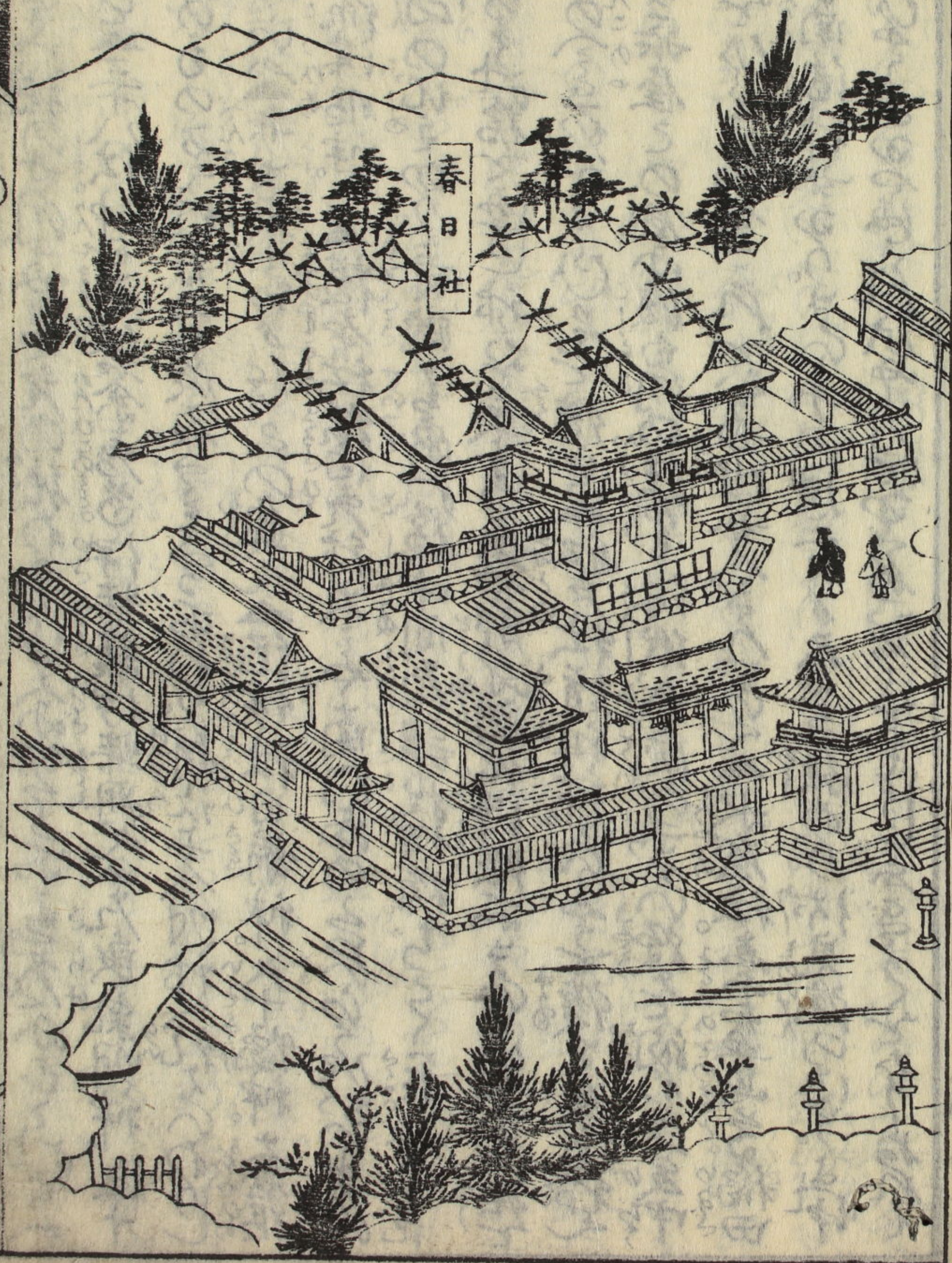


▲森道。まがら川といふ川といふ大明神麻よりうづのふり号あり  
板戸と古の橋といふをりてさるせんとせんぬ橋といふ。是より沖津がへ  
二乃ありびら。西之屋比禮・本後宮の屋・上の屋・瓦の屋・新造の  
屋のり。是と女々の屋といふ。奥福寺傍まの目えんりして天下泰平園  
土安全の沖津橋あり。その外屋裏。これとさると。右の森道▲車舎  
うづの海のりおおとゆるだ。前さるに五位橋あり。お後と橋は又色の  
るをさくまは沖津の沖津とぞなれ。●二のを指。も指の所ななるさる  
れおかれやあまのり。●屋方の沖津く▲板戸社。濃濃津比咩神と  
沖津の石ころうに幣あり。これとさるひ身と後め社系よとさ  
▲神垣。ちひどの社の木のたさるう。沖津のりれ下葉  
ちり。さそおまかぞのこなむとせとら。左なる二とぞあり。  
右の方び着到殿とさるありの勅使つきさる役人おとさる

のせうとさるたるとびの屋のき飛じうらあらのそか漢もたれは号あり  
そはあつさそこのちか飛のた左のほららの板は釘とつぬてが乃  
あらのさりとるしてあづつとさるうづつとさるもせよあらの  
そののまのまらげ▲向扉。西より門あり。南の菱が門。中へ傍正門。  
おの侍門▲沖津洗川。うづ門とておらりある。わと洗川とさる  
や。洗川のり。●直會殿。おけかうと  
修。●八傳。●神樂所あり▲金剛童子の社。伊峰。●一の門  
とへたのちろ。▲椿本社。二見宿禰命。櫻本明神。大正三味神  
佐軍神。田心姫。海本明神。大物毛命。粟津社。火部有命。八  
雷神。いづも。大とて人のりろ。●小社二社有。南西。●  
たのこの社。おの方ひらしてんさん。●風神社。立田は沖津。大と

いぬわのなる南面也。岩瀬明神岩瀬神明神大文彦殿よりひつりたる所也。  
▲春日大宮春日大宮四所。一の御殿一の御殿をひらけり。二の御殿二の御殿のなる。この  
神神友のまゝと祿のまゝ。にの御殿にの御殿ひめがら。このらう門南向南向に御殿御殿せう  
こく入宮入宮のほろとんごけのうん二年十一月九日所供所供の村風彦村風彦終食  
乙卯九。安永三年と九子九年にある。あまのに明明大宮大宮かやう三年九  
月に中臣中臣秀基秀基とてめとてうりんとててのちふ。清和清和天皇天皇ごううらん  
元年十一月九日かのうらるの敷らめて祭あり。まの年二月十日辰の日  
うら成の日までおこる。申の日らげにちちとくへのりありとて略略を  
貞観元年貞観元年の安永二年と九百廿七年にたる。▲神護寺神護寺。大まや衣  
のふ。西の向の社社の。▲青柳青柳。辛柳辛柳。完栗完栗。井栗井栗。まんごうより  
南南の方の方のやうと。▲南門南門。二のうらう。日まの赤赤雲雲子子の御殿御殿に  
如如意意石石はまあり。康保康保に身ふ身ふ志志らうりらうりのたあたあああささひひる。祐任祐任の

社のまゝひまらんやぶをたぬ。つぎとめあめとてありとて▲布布生生  
樹樹。ゆのせいの南のちとてふ。春景春景記記ありのびもあやうのてとてうら  
こころたひけのむらうとてとてしき。▲若若文文介介院院小社小社。壹壹子子  
明神明神。かやうのうらうの南南。▲南宮南宮明神明神。▲天主天主明神明神。こり  
まやこころのちの方の方のり。▲うらう。▲天天押押雲雲命命。大明神大明神。こり  
まらうのあひて。武武百百廿廿六年六年の。二條院二條院のほろと保保身身二月二日  
はあめがらん中中臣臣是是忠忠やうとて。このほろとんごけ。まのり。安永  
三年とて百七十年にたる。まのち百二年とて崇崇徳徳のんの  
はう。長長兼兼に身二月廿七日別社別社ふせんごう。うら保保延延二年  
九月十七日にさのまのり。そのち實實正正年中年中の十一月廿七  
日ふたる。門門のふふ小社小社のり。六六通通合合神神。あまの力力雄雄神神。まのり  
こりまのほろとんごけ。一家一家の秘秘院院あり。林林せんごう。毎年毎年二月



春日社



岩宮社





▲法華堂羅索院金鐘寺也小二月堂といふ。天保八年開山良  
年傍よりめくるといふ。後子有余年にいつていさり水火の難し  
中より不空四指索院也者ぞ川良赤傍正の沖地股士日光月光  
破ん人帝釈に天玉ふの巻卷并のほ地正面中づの沖勤并良赤傍自  
他の言洞佛地蓋并ハ以法大降不勤明王ハ勤操傍正の沖地は良  
のほはあり良正并大懸并自懸文の如と発しある大平上平聖臣  
夫らと二十の内かきして為堂にありと新置の審祥大懸と信ト初て  
▲華嚴經と講し色小紫雲なびきなるの眉間より令色之光と  
故らあり帝威威のあり終は良赤傍正小初し令相十六丈の毘盧  
舍那のそ像と傍より初て大伽藍と建す。ある珠は南寺之初の  
宝場結復を家の勝縁と後戸等身の札令討神ハ秘伝の良  
赤傍正の本も靈驗は勝色と交身中平の將門乱の時に傍

大なる輝と變化し相門とされい眞助よりて終は將門謀し色し  
故は世の人蜂の宮とす標して信仰はありしある平源記に并  
白河院中願記等ふりたり▲三月堂本も親世書む川天平勝室  
三月十日申和あるた寺のつらげのりてとて川の四めん約百十九人  
つれと十めんのけといとんあるありとす。孫んらんめんがは  
りやう好法とて人申は之の好いことあるは心おん人の親善ありき  
ごんあるがごとくおんかやうのいん。信といして親信せらんとんを  
あきんてこれとててるぬを後あたはははをきくせんびん。唐死と  
そむのりて海よりかんとせいでぬんでさしやうらんやうとありのさあを  
すて終よりつらむといふと百日計ぬを終は下人の十二面親世者同く  
らくぶらむのきんをある別ある寺にめんらしむのほしんわらうあ  
あひのほしん年二月朔日十日と法なり法種らんが良赤傍正ありそ

○（一）正徳元年（一六九一）の秋、（二）徳川幕府は、（三）尾張藩に、（四）「（五）尾張藩の藩政を正すべし」と命じた。これにより、尾張藩は、（六）藩政の改革を進め、（七）藩政の整備を行った。この改革は、（八）藩政の近代化に大きく貢献した。この改革は、（九）藩政の近代化に大きく貢献した。この改革は、（一〇）藩政の近代化に大きく貢献した。

○（一）正徳元年（一六九一）の秋、（二）徳川幕府は、（三）尾張藩に、（四）「（五）尾張藩の藩政を正すべし」と命じた。これにより、尾張藩は、（六）藩政の改革を進め、（七）藩政の整備を行った。この改革は、（八）藩政の近代化に大きく貢献した。この改革は、（九）藩政の近代化に大きく貢献した。この改革は、（一〇）藩政の近代化に大きく貢献した。



大佛の堂

大佛の堂



三月堂

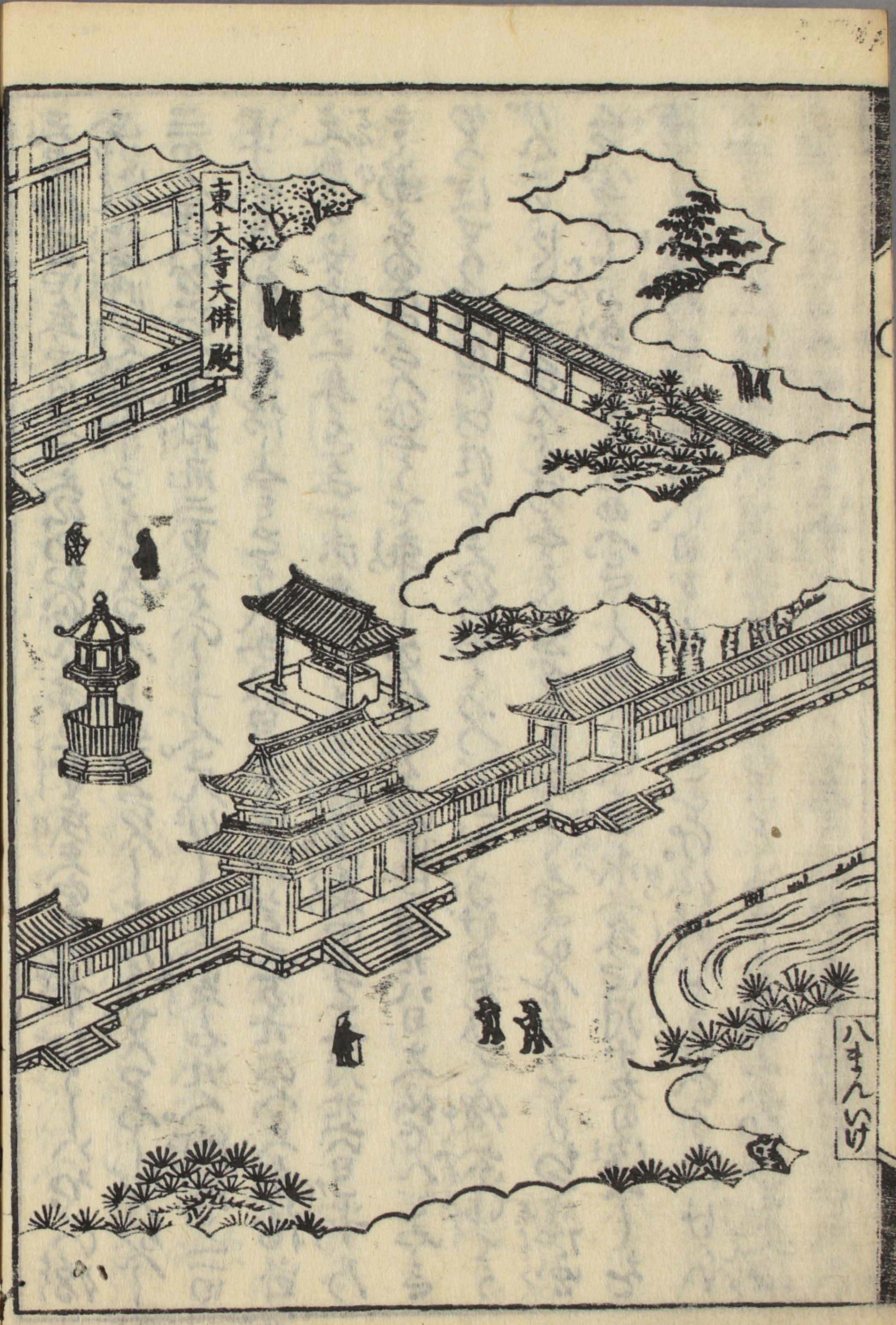
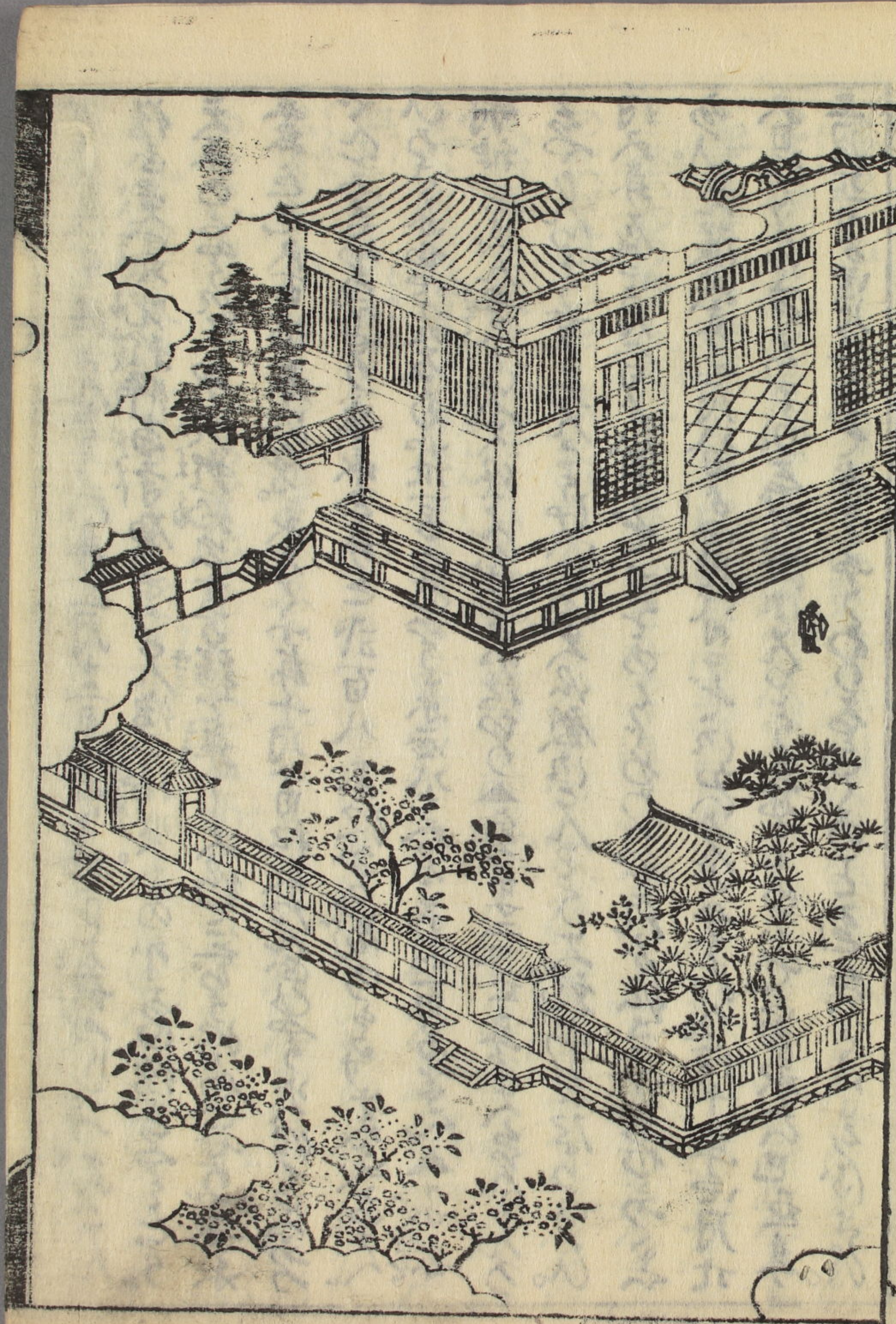
三月堂

八丈の社

八丈の社







東大寺大佛殿

八丈のいけ

だんわりのを後だんきつう二年二月十日のちう。だじ舞がくじつうあじん  
後心是意呪神あるまじうせん後心補授そのかよる傳きかまら  
天平のちうにのちのたげたかまする勢と華一太公とぶらためじかの安永  
二年三月百十年に也。永らく十年十月十日に取だんひやう火にくまざり  
せんくまざりざり安永二年正月八奉に也。夜のさすまはま  
ひらくまゆに九なるものたるまじうしあやみもあはるまじ  
明神。かまはるまじいんあふはむの▲貞享二年正月十日の  
あふんかまらまらふんけいふん太公殿はこんくろ太公殿はならあふん  
日み奉後二月十日の旨までくまのくまの。それかはらうまもあふん  
あひえ後永二年八月十日の旨までくまのくまの。は十年に月廿  
五日のうらふんかまらまらふん太公殿はこんくろ太公殿はならあふん  
三月廿五日の旨までくまのくまの。

永享二年正月十日の旨までくまのくまの。は十年に月廿五日の旨までくまのくまの。  
あふんかまらまらふんけいふん太公殿はこんくろ太公殿はならあふん  
日み奉後二月十日の旨までくまのくまの。それかはらうまもあふん  
あひえ後永二年八月十日の旨までくまのくまの。は十年に月廿五日の旨までくまのくまの。  
三月廿五日の旨までくまのくまの。

▲永享二年正月十日の旨までくまのくまの。は十年に月廿五日の旨までくまのくまの。  
三月廿五日の旨までくまのくまの。



本神の御子神多き事云々  
▲雲の橋入りの池の西の山に神ありて  
人おもておの池の西の山に神ありて  
山の北に神ありて  
▲興福寺  
▲中門  
▲中倉堂

▲東金堂  
▲西金堂  
▲南金堂  
▲北金堂  
▲中門  
▲中倉堂







佐保山眉間寺支堂の八皇二十代聖武皇帝乃ハ親制ハ陵  
 所ハ洛陽の園養ナリ又皇太子寺ハ敬法寺南門ハ佐保山結  
 の皇位ナリハ御公藤原の后宮の侍為ハ勅詔ありて伽藍ト造  
 築シ本堂中ニ河弥陀如来ハ別帝侍奉ス右末師ハ釈迦如来ハの  
 行春并ハ彫刻之初ハ眺々寺ト号シ侍小皇帝此山ハ侍院幸ハ遠  
 見之り故眺々寺ト初額賜之也又長寛年中村上又天皇侍宮  
 侍之御の御ハ化人現ト眉間より光りて教奉ハ時少有て化人其  
 跡ハ舍利沙粒ありハ由遠ニ奏聞ニ及リ帝奇物の事殿  
 慮ありて眉間教光の瑞相ト眉間寺ト初額ト賜ハ聖武  
 皇帝ハ欽喜の化人ナリトシテハ其年の星を和と経トシテモ  
 聖徳不修ナリ也ハ閏ハ凶卦ありハ人トシテハは侍院ハ  
 之ハ明神ト定メハ行基菩薩陵婆羅門侍ハ良辨侍ハ飲

のどく文珠寺覺彌勒并の聖作トモ四聖同時出世  
 佛法ハ法泰実ハその宗トモタビキ事ナリトモ子殿ト  
 八百年未建物多ク寶塔觀音堂等ありハ六六  
 年ハ深の縁ハ侍院の靈山ハ御ハ侍ハ本縁起トモ

からめい

- 一 ぐそく
- 一 さけり
- 一 はんぢう
- 一 うらら
- 一 ちのち

安永三甲午年 南都大佛  
 六月吉日 繪圖屋庄八版

六月廿五日  
新圖家莊八號  
香泉甲申

Dear Mr. Combes  
I received your letter  
of the 14th and was  
glad to hear from  
you. I am well and  
hope these few lines  
will find you the same.  
I am, Sir, your  
Obedient Servant,  
J. W. Combes

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written in a historical style. The text is mostly illegible due to fading and the cursive nature of the handwriting.